

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム星岡
所在地	松山市星岡2丁目8番24号
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・健康管理や医療面で、医師・看護師との連携を密にして安心して過ごせるように配慮している。 ・有する機能を活かす支援に力を入れている。 ・幼稚園、保育園との交流や、小中学生の介護体験・実習生を積極的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体で、事業所はショートステイやデイサービスと一緒に入っている複合施設の1階にある。利用者の健康管理や緊急時の対応等は、母体病院と速やかに連携が取れる体制となっており、利用者や家族は医療面で不安なく利用することができる。管理者は現場に出ており職員と相談がしやすい関係性を築いており、働きやすい環境にある。管理者をはじめ職員は利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本意のケアを実践しており、利用者が穏やかに楽しい生活が出来るよう支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム星岡

(ユニット名)

星 組

記入者(管理者)

氏 名

井上 美恵子

評価完了日

平成 25 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で理念を考え、作成して、朝礼や職員会で唱和し、ケアの意識統一を図り、実践に繋げている。	
			(外部評価) 事業所の開設当初に職員全員で話し合い理念を作成している。理念は見える場所に掲示して朝礼時などに唱和し、職員間で共有している。職員会などで理念が実践できているか振り返りながら、管理者をはじめ職員全員が笑顔と思いやりを持ち、利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の盆踊り、お祭り、敬老会等に参加したり、幼稚園・保育園との交流を行ったり、移動喫茶等にボランティアの方々の協力を得て交流を行っている。	
			(外部評価) 事業所には定期的に幼稚園児の訪問があり、歌や踊りを披露してくれ、利用者の楽しみとなっている。中学生、高校生の福祉体験学習の受け入れやボランティアの受け入れを行い、地域との関わりが持てるよう努めている。また、利用者と一緒に地域の行事に参加したり、日頃から地域のボランティアが頻繁に訪問してくれるなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 人材育成の為、実習生の受け入れや、学生さんの介護体験など積極的に受け入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に、多方面の方々に参加し て頂き、多くの意見をサービスの向上に役立ててい る。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町内会長、民生委員、 保育園長、市担当者、地域包括支援センター職員等の 参加を得て開催している。会議では事業所の活動や状 況、課題等を報告し、参加者と意見交換を行い、会議 と合わせて応急処置などの勉強会と一緒に開催する工 夫をしている。参加者に事業所の様子を知ってもら い、意見をもらいながらサービスの質の向上に繋げて いる。	会議では意見交換は活発に行われているが、参加者の 固定化が見られ、議題に合わせて関係者や有識者の参 加を求めるなど、工夫して開催することが望まれる。 多方面との繋がりを持つことにより、地域との交流が 開ける機会にもなる。参加メンバーを考慮し、会議の さらなる充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いている時など、介護保険 課担当の方に話を聞いたり質問などしている。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議 に参加しており、事業所の報告や利用者の相談等をし て、連携を深めている。また、県や市、グループホー ム連絡協議会などが開催する研修会に積極的に参加し ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の定義等を掲示し、常に意識付けをし、ケア に取り組める様になっている。玄関の自動ドアは電源を 切っているが、利用者さんの外出時には、一緒に出る などの対応をしている。 施設内部では、委員会を設けて勉強会を行い、参加し た職員が全員に伝達している。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。スタッフ会議でも身体拘束 をしないケアについて話し合い、職員は正しい理解を して実践している。言葉での拘束についても職員全員 で意識しながら適切な対応をするよう心掛けている。 事業所のある複合施設の前は車の行き来が多いため、 玄関は安全面を考え、手動での開閉となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する定義を掲示し、意識付けをしている。また勉強会に参加した職員に伝達をしてもらっている。職員にストレスが溜まらない様に休憩を取れるよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で講師を招き、勉強会を行い、今後入居者さんに必要となれば活用出来る様に支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用料や起こりうるリスクなどを詳しく説明し、意見などを聞き、同意を得ている。利用料金等の改定の場合も詳しく説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会やピアカウンセリングを定期的 to開催し、家族だけで話し合える時間を取り、茶話会をしながら意見の出しやすい雰囲気の中で職員との話し合いをしている。	
			(外部評価) 利用者から日々のケアの中で要望を聞くように努めている。家族からは家族会開催時や訪問時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には手紙や電話等で報告を行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回職員会を行い、自由な意見や要望を出せる雰囲気作りを行い、働く意欲の向上に繋げている。会議には、看護師も出席して職員の意見を聞き取っている。 (外部評価) 管理者は毎月のスタッフ会議で職員の意見や要望を聞くよう努めている。意見や要望がある場合はその都度対応している。管理者は職員からの話をしっかり聞く姿勢があり、働きやすいようシフト組みを行うなど職員からも信頼されている。出された意見は事務長などを通じ反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けて情報提供したり、取得後は、給与に反映されている。職場でのストレスや疲労をためない様に気分転換が出来る様、休憩室を確保している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で行われる委員会には一人一役参加して、勉強会をし、事業所外の研修会には代表者が参加して、研修内容を全職員にフィードバックして実践出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に所属し、研修時には場所提供をして出席出来る職員は参加して、情報交換や勉強会を行い、サービスの質向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学に来られた時や、入居時に、ご本人との会話の中で生活状況や困っている事等をさりげなく引き出し、安心して生活して頂ける様心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の体験や思いを理解しながら、本人の状態を考慮 してより良い生活が出来るように一緒に考えられるよ う努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時にご家族・ご本人から今一番 必要とされる支援をお伺いして柔軟に対応している。 場合によっては、ショートステイ・デイサービス等の 利用に繋げている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 理念に掲げている【お年寄りを敬う気持ちを忘れな い】ように心がけ、人として学び、利用者さんが生活 するうえで安心して頂く様、時間をかけて関わってい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で変化があれば、ご家族に連絡してより 良い支援に努めている。また、ご家族から干し柿作 り・そら豆むきなど、利用者さんの出来る事について の提案をして頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 毎月奥様の月命日に、娘さんとお墓参りに出かけたり、 主治医への受診など、ご本人が外出出来る支援を している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、お墓参りや実家に帰ることを 家族の協力を得て支援している。複合施設内のデイ サービスを利用している知人を訪ねたり、孫が遊びに 来てくれたりするなど、馴染みの人や場所との関係が 途切れないよう支援している。また、家族や知人が事 業所を訪問しやすいよう職員は配慮しており、気持ち の良い対応に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんが孤立しない様に、皆さんで出来るレクリエーションやお茶の時間を持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院になられた方のお見舞いに行ったり、他の施設へ移られた時は、ケアの情報など詳細をお伝えして、通常生活が継続出来る様に働きかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の会話の中から、思いや希望・意向を把握して、ご本人の視点に立って話し合っている。	
			(外部評価) 日頃から職員は利用者の一人ひとりに向き合いながら、会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めている。また、意思疎通が困難な利用者は家族から情報を聞いたり、利用者の表情や動作から思いや意向を把握するように努めている。把握した内容は記録し、申し送りなどで職員全員が共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、入居時や面会の際にご家族やご本人から情報を提供して頂き、これまでの生活の把握が出来る様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人お一人の状況を把握して、ご本人の出来る事を見極めて、暮らしの中で出来ない事より出来る事に注目し、その方全体の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人がより良く暮らす為に、ご本人・ご家族・職員で 課題やアイデアを出し合い、計画作成して設定期間毎 に見直しを行っている。	
			(外部評価) 管理者と職員は利用者が事業所でより良く暮らしても らうためにはどうしたらよいかを考え、利用者や家族 の意向を聞き、計画作成担当者を中心に話し合い介護 計画を作成している。また、定期的にモニタリングを 行い評価を行っている。職員全員の意見や気づきを大 事にして、ミーティング時に話し合い、記録などの確 認を大切にしてい見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの結果など個別記録に記入したり、 職員間で情報を共有して実践に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 入居者さんの通院や送迎、入院時の付き添い者の紹介 等、必要な支援は柔軟に対応し、ご家族の要望に臨機 応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 月1回の園児との交流、2ヶ月に1回のボランティアさん の協力による移動喫茶は、定期となり定着して入居者 さんの楽しみとなっている。また、町内会との提携に より非常時・緊急時における協力体制が出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者さんやご家族が希望する主治医となっている。 ご家族さんが、受診の付き添いをして頂く時は、情報 や血圧手帳を渡して連携を取っている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受 診することができるよう支援している。利用者や家族 の希望により、母体病院を協力医に変更することもある。 緊急時は協力医が24時間体制で対応することが でき、利用者は安心して利用することができる。家族 の同行が困難な場合は、職員が受診介助を行い、家族 に受診報告等を行い、連携を図りながら利用者の支援 に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の中で、表情や体調の変化を見逃さないよう にし、異常があれば看護師に報告し、早急な対応をし ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者さんが入院された場合、情報を提供してその間 お見舞いに行き、回復期には情報を頂き、速やかに退 院に向けて支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化・緊急時の対応についての指針を説明 し、夜間の対応は系列病院にお願いしており、日中 は、看護師が対応してくれるようになっている。	
			(外部評価) 現時点では事業所での看取りは行っていない。利用者 が重度化した場合には早い段階から家族と話し合いを 持ち、意向を確認している。緊急時には母体病院への 入院を手配することができ、利用者や家族は安心して 利用することができる。複合施設の利点を活かし、管 理者は看取りを事業所で実施していくことも考えてお り、看取りの勉強会や研修等を重ねて職員の意識やレ ベルアップを図り、対応できるよう取り組む予定であ る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 月1回の委員会で急変や事故発生時の対応に備えてシュミレーションを行い、職員全員身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回行っている避難訓練では、施設全体で取り組み入居者さんと職員が真剣に取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加し、当施設が避難場所にもなっている。 (外部評価) 複合施設合同で年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。日頃から職員全員の防災意識を高めるよう努めている。緊急時に地域住民の協力が得られるよう、住民に避難訓練への参加を呼びかけているところである。ユニット毎の自主訓練や防災研修を行い、利用者の安全で安心な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者を敬う気持ちを忘れない様、理念に掲げプライドやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないように、職員は不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーの配慮して対応している。利用者には優しい言葉づかいや態度で接することを常に念頭に置き、管理者をはじめ職員は支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者さんに併せて声かけを行い、小さな事でもご本人に決める場面を作っている。意思表示が困難な方にも、二者択一で自己決定して頂く様に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) お一人お一人の体調を配慮しながらその時のご本人の気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、化粧やおしゃれを楽しんでもらえる様サービス計画に入れている。節目には着物を着て頂いて、季節を感じて貰っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 煮干の頭取り、米とぎ等、利用者さんと一緒に行い、利用者さんと職員が同じテーブルで楽しく食事を行っている。 (外部評価) 複合施設の栄養士が合同で献立を立て、厨房で調理している。ユニット毎にご飯と味噌汁を作り、温かい食事を提供している。また、利用者は米とぎや台拭き、片付けなど、できることを職員と一緒に手伝っている。食事介助などの支援が必要な利用者には、職員が横に座り、楽しくかつ自立した食事ができるようさりげない援助をしている。利用者は行事時の特別メニューも楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がカロリー・栄養バランスを考えたメニューにして利用者さんの食事摂取量や水分量などを記録して、体調管理を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて毎食後の歯磨きを行っている。就寝時には義歯の洗浄も行っている。グループ内の歯科衛生士の指導のもと口腔内の清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 職員は、さりげなく声かけして、トイレで排泄出来る様に支援してチェック表をつけ、状況を把握している。失敗された場合に自尊心を傷つけない様に配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。夜間のみポータブルトイレを使用したり、オムツを使用するなど、利用者の状態に合わせた排泄支援に努めている。トイレ誘導をするなど利用者にはトイレに座る習慣をつけ、できる限りトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンを記録し、食事・おやつに繊維質の多い食材や乳製品・お茶寒天などを提供したり、水分補給に努め、自然排便になるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お一人お一人とゆったりと時間をかけて歌を歌ったり、会話をしてリラックス出来る様工夫している。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができる。利用者の状態に合わせ、複合施設内のショートステイの特殊浴槽を使用し、安全に入浴することもできる。入浴の苦手な利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。利用者一人ひとりに時間をかけ、会話をするなどゆっくり楽しめる入浴ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、お一人お一人の体調・表情を考慮して、個別にソファやベッドでゆっくり休憩が取れる様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お一人お一人が、服用する薬の内容は個人ファイルで職員がいつでも確認出来る様にしている。病状の変化は、看護師に報告し、支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お一人お一人が出来る事をして頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節のイベントには、ボランティアさんやご家族の方に声掛けして協力をお願いして外出している。入居者さんと相談しながら個別に外出支援をしている。	
			(外部評価) 日頃から事業所周辺を散歩したり、近くの川へ鯉を見に行くなど外出できるよう支援している。日常的に近くの幼稚園と交流があり、利用者と園児は行き来し、交流を深めている。地域の季節のイベントなどには、家族やボランティアの協力を得ながら外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に応じて自分で管理される方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者さんがご家族に用事がある時は電話をかけたり贈り物が届いたりした場合、御礼の葉書を書き、ご家族さんとのやりとりをして頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 雛祭り、お花見、七夕祭り、いもたき等、季節を感じて頂ける行事や装飾を工夫したり、廊下や居室には行事や外出時の写真を貼り、親しみやすい雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 居間にはダイニングテーブルとソファをゆったりと配置しており、利用者は思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。車いすの利用者が移動しやすいように広々とした空間が保たれている。環境整備が行き届き、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置き、仲の良い入居者さん同士がくつろいだり、お一人で過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、全個室になっており、写真や花、思い出の品々を自由に置き、居心地良く過ごせる様工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、タンス、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者の状態や希望により、畳を敷き居室を利用することができる。居室には利用者が使い慣れたものを持ち込むことができ、思い出の写真や花、観葉植物などを飾り、自由にレイアウトを楽しんでおり、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室やトイレに目印や表示をして、身体状況に応じて歩行器・車椅子・リクライニング等利用して頂いている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム星岡
所在地	松山市星岡2丁目8番24号
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・健康管理や医療面で、医師・看護師との連携を密にして安心して過ごせるように配慮している。 ・有する機能を活かす支援に力を入れている。 ・幼稚園、保育園との交流や、小中学生の介護体験・実習生を積極的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体で、事業所はショートステイやデイサービスと一緒に入っている複合施設の1階にある。利用者の健康管理や緊急時の対応等は、母体病院と速やかに連携が取れる体制となっており、利用者や家族は医療面で不安なく利用することができる。管理者は現場に出ており職員と相談がしやすい関係性を築いており、働きやすい環境にある。管理者をはじめ職員は利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本意のケアを実践しており、利用者が穏やかに楽しい生活がおくれるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム星岡

(ユニット名)

花 組

記入者(管理者)

氏 名

井上 美恵子

評価完了日

平成 25 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で理念を考え、作成して、朝礼や職員会で唱和し、ケアの意識統一を図り、実践に繋げている。	
			(外部評価) 事業所の開設当初に職員全員で話し合い理念を作成している。理念は見える場所に掲示して朝礼時などに唱和し、職員間で共有している。職員会などで理念が実践できているか振り返りながら、管理者をはじめ職員全員が笑顔と思いやりを持ち、利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の盆踊り、お祭り、敬老会等に参加したり、幼稚園・保育園との交流を行ったり、移動喫茶等にボランティアの方々の協力を得て交流を行っている。	
			(外部評価) 事業所には定期的に幼稚園児の訪問があり、歌や踊りを披露してくれ、利用者の楽しみとなっている。中学生、高校生の福祉体験学習の受け入れやボランティアの受け入れを行い、地域との関わりが持てるよう努めている。また、利用者と一緒に地域の行事に参加したり、日頃から地域のボランティアが頻繁に訪問してくれるなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 人材育成の為、実習生の受け入れや、学生さんの介護体験など積極的に受け入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に、多方面の方々に参加し て頂き、多くの意見をサービスの向上に役立ててい る。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町内会長、民生委員、 保育園長、市担当者、地域包括支援センター職員等の 参加を得て開催している。会議では事業所の活動や状 況、課題等を報告し、参加者と意見交換を行い、会議 と合わせて応急処置などの勉強会と一緒に開催する工 夫をしている。参加者に事業所の様子を知ってもら い、意見をもらいながらサービスの質の向上に繋げて いる。	会議では意見交換は活発に行われているが、参加者の 固定化が見られ、議題に合わせて関係者や有識者の参 加を求めるなど、工夫して開催することが望まれる。 多方面との繋がりを持つことにより、地域との交流が 開ける機会にもなる。参加メンバーを考慮し、会議の さらなる充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いている時など、介護保険 課担当の方に話を聞いたり質問などしている。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議 に参加しており、事業所の報告や利用者の相談等をし て、連携を深めている。また、県や市、グループホー ム連絡協議会などが開催する研修会に積極的に参加し ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の定義等を掲示し、常に意識付けをし、ケア に取り組める様になっている。玄関の自動ドアは電源を 切っているが、利用者さんの外出時には、一緒に出る などの対応をしている。 施設内部では、委員会を設けて勉強会を行い、参加し た職員が全員に伝達している。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。スタッフ会議でも身体拘束 をしないケアについて話し合い、職員は正しい理解を して実践している。言葉での拘束についても職員全員 で意識しながら適切な対応をするよう心掛けている。 事業所のある複合施設の前は車の行き来が多いため、 玄関は安全面を考え、手動での開閉となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する定義を掲示し、意識付けをしている。また勉強会に参加した職員に伝達をしてもらっている。職員にストレスが溜まらない様に休憩を取れるよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で講師を招き、勉強会を行い、今後入居者さんに必要となれば活用出来る様に支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用料や起こりうるリスクなどを詳しく説明し、意見などを聞き、同意を得ている。利用料金等の改定の場合も詳しく説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会やピアカウンセリングを定期的 to開催し、家族だけで話し合える時間を取り、茶話会をしながら意見の出しやすい雰囲気の中で職員との話し合いをしている。	
			(外部評価) 利用者から日々のケアの中で要望を聞くように努めている。家族からは家族会開催時や訪問時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には手紙や電話等で報告を行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回職員会を行い、自由な意見や要望を出せる雰囲気作りを行い、働く意欲の向上に繋げている。会議には、看護師も出席して職員の意見を聞き取っている。 (外部評価) 管理者は毎月のスタッフ会議で職員の意見や要望を聞くよう努めている。意見や要望がある場合はその都度対応している。管理者は職員からの話をしっかり聞く姿勢があり、働きやすいようシフト組みを行うなど職員からも信頼されている。出された意見は事務長などを通じ反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けて情報提供したり、取得後は、給与に反映されている。職場でのストレスや疲労をためない様に気分転換が出来る様、休憩室を確保している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で行われる委員会には一人一役参加して、勉強会をし、事業所外の研修会には代表者が参加して、研修内容を全職員にフィードバックして実践出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に所属し、研修時には場所提供をして出席出来る職員は参加して、情報交換や勉強会を行い、サービスの質向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学に来られた時や、入居時に、ご本人との会話の中で生活状況や困っている事等をさりげなく引き出し、安心して生活して頂ける様心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の体験や思いを理解しながら、本人の状態を考慮 してより良い生活が出来るように一緒に考えられるよ う努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時にご家族・ご本人から今一番 必要とされる支援をお伺いして柔軟に対応している。 場合によっては、ショートステイ・デイサービス等の 利用に繋げている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 理念に掲げている【お年寄りを敬う気持ちを忘れな い】ように心がけ、人として学び、利用者さんが生活 するうえで安心して頂く様、時間をかけて関わってい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で変化があれば、ご家族に連絡してより 良い支援に努めている。また、ご家族から干し柿作 り・そら豆むきなど、利用者さんの出来る事について の提案をして頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 毎月奥様の月命日に、娘さんとお墓参りに出かけたり、 主治医への受診など、ご本人が外出出来る支援を している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、お墓参りや実家に帰ることを 家族の協力を得て支援している。複合施設内のデイ サービスを利用している知人を訪ねたり、孫が遊びに 来てくれたりするなど、馴染みの人や場所との関係が 途切れないよう支援している。また、家族や知人が事 業所を訪問しやすいよう職員は配慮しており、気持ち の良い対応に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんが孤立しない様に、皆さんで出来るレクリエーションやお茶の時間を持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院になられた方のお見舞いに行ったり、他の施設へ移られた時は、ケアの情報など詳細をお伝えして、通常生活が継続出来る様に働きかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の会話の中から、思いや希望・意向を把握して、ご本人の視点に立って話し合っている。	
			(外部評価) 日頃から職員は利用者の一人ひとりに向き合いながら、会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めている。また、意思疎通が困難な利用者は家族から情報を聞いたり、利用者の表情や動作から思いや意向を把握するように努めている。把握した内容は記録し、申し送りなどで職員全員が共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、入居時や面会の際にご家族やご本人から情報を提供して頂き、これまでの生活の把握が出来る様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人お一人の状況を把握して、ご本人の出来る事を見極めて、暮らしの中で出来ない事より出来る事に注目し、その方全体の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人がより良く暮らす為に、ご本人・ご家族・職員で 課題やアイデアを出し合い、計画作成して設定期間毎 に見直しを行っている。	
			(外部評価) 管理者と職員は利用者が事業所でより良く暮らしても らうためにはどうしたらよいかを考え、利用者や家族 の意向を聞き、計画作成担当者を中心に話し合い介護 計画を作成している。また、定期的にモニタリングを 行い評価を行っている。職員全員の意見や気づきを大 事にして、ミーティング時に話し合い、記録などの確 認を大切にして見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの結果など個別記録に記入したり、 職員間で情報を共有して実践に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 入居者さんの通院や送迎、入院時の付き添い者の紹介 等、必要な支援は柔軟に対応し、ご家族の要望に臨機 応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 月1回の園児との交流、2ヶ月に1回のボランティアさん の協力による移動喫茶は、定期となり定着して入居者 さんの楽しみとなっている。また、町内会との提携に より非常時・緊急時における協力体制が出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者さんやご家族が希望する主治医となっている。 ご家族さんが、受診の付き添いをして頂く時は、情報 や血圧手帳を渡して連携を取っている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受 診することができるよう支援している。利用者や家族 の希望により、母体病院を協力医に変更することもある。 緊急時は協力医が24時間体制で対応することが でき、利用者は安心して利用することができる。家族 の同行が困難な場合は、職員が受診介助を行い、家族 に受診報告等を行い、連携を図りながら利用者の支援 に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の中で、表情や体調の変化を見逃さないよう にし、異常があれば看護師に報告し、早急な対応をして いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者さんが入院された場合、情報を提供してその間 お見舞いに行き、回復期には情報を頂き、速やかに退 院に向けて支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化・緊急時の対応についての指針を説明 し、夜間の対応は系列病院にお願いしており、日中 は、看護師が対応してくれるようになっている。	
			(外部評価) 現時点では事業所での看取りは行っていない。利用者 が重度化した場合には早い段階から家族と話し合いを 持ち、意向を確認している。緊急時には母体病院への 入院を手配することができ、利用者や家族は安心して 利用することができる。複合施設の利点を活かし、管 理者は看取りを事業所で実施していくことも考えてお り、看取りの勉強会や研修等を重ねて職員の意識やレ ベルアップを図り、対応できるよう取り組む予定であ る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 月1回の委員会で急変や事故発生時の対応に備えてシュミレーションを行い、職員全員身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回行っている避難訓練では、施設全体で取り組み入居者さんと職員が真剣に取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加し、当施設が避難場所にもなっている。 (外部評価) 複合施設合同で年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。日頃から職員全員の防災意識を高めるよう努めている。緊急時に地域住民の協力が得られるよう、住民に避難訓練への参加を呼びかけているところである。ユニット毎の自主訓練や防災研修を行い、利用者の安全で安心な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者を敬う気持ちを忘れない様、理念に掲げプライドやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないように、職員は不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーの配慮して対応している。利用者には優しい言葉づかいや態度で接することを常に念頭に置き、管理者をはじめ職員は支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者さんに併せて声かけを行い、小さな事でもご本人に決める場面を作っている。意思表示が困難な方にも、二者択一で自己決定して頂く様に心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) お一人お一人の体調を配慮しながらその時のご本人の気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、化粧やおしゃれを楽しんでもらえる様サービス計画に入れている。節目には着物を着て頂いて、季節を感じて貰っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 煮干の頭取り、米とぎ等、利用者さんと一緒に行い、利用者さんと職員が同じテーブルで楽しく食事を行っている。 (外部評価) 複合施設の栄養士が合同で献立を立て、厨房で調理している。ユニット毎にご飯と味噌汁を作り、温かい食事を提供している。また、利用者は米とぎや台拭き、片付けなど、できることを職員と一緒に手伝っている。食事介助などの支援が必要な利用者には、職員が横に座り、楽しくかつ自立した食事ができるようさりげない援助をしている。利用者は行事時の特別メニューも楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がカロリー・栄養バランスを考えたメニューにして利用者さんの食事摂取量や水分量などを記録して、体調管理を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて毎食後の歯磨きを行っている。就寝時には義歯の洗浄も行っている。グループ内の歯科衛生士の指導のもと口腔内の清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 職員は、さりげなく声かけして、トイレで排泄出来る様に支援してチェック表をつけ、状況を把握している。失敗された場合に自尊心を傷つけない様に配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。夜間のみポータブルトイレを使用したり、オムツを使用するなど、利用者の状態に合わせた排泄支援に努めている。トイレ誘導をするなど利用者にはトイレに座る習慣をつけ、できる限りトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンを記録し、食事・おやつに繊維質の多い食材や乳製品・お茶寒天などを提供したり、水分補給に努め、自然排便になるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お一人お一人とゆったりと時間をかけて歌を歌ったり、会話をしてリラックス出来る様工夫している。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができる。利用者の状態に合わせ、複合施設内のショートステイの特殊浴槽を使用し、安全に入浴することもできる。入浴の苦手な利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。利用者一人ひとりに時間をかけ、会話をするなどゆっくり楽しめる入浴ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、お一人お一人の体調・表情を考慮して、個別にソファやベッドでゆっくり休憩が取れる様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お一人お一人が、服用する薬の内容は個人ファイルで職員がいつでも確認出来る様にしている。病状の変化は、看護師に報告し、支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お一人お一人が出来る事をして頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節のイベントには、ボランティアさんやご家族の方に声掛けして協力をお願いして外出している。入居者さんと相談しながら個別に外出支援をしている。	
			(外部評価) 日頃から事業所周辺を散歩したり、近くの川へ鯉を見に行くなど外出できるよう支援している。日常的に近くの幼稚園と交流があり、利用者と園児は行き来し、交流を深めている。地域の季節のイベントなどには、家族やボランティアの協力を得ながら外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に応じて自分で管理される方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者さんがご家族に用事がある時は電話をかけたり贈り物が届いたりした場合、御礼の葉書を書き、ご家族さんとのやりとりをして頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 雛祭り、お花見、七夕祭り、いもたき等、季節を感じて頂ける行事や装飾を工夫したり、廊下や居室には行事や外出時の写真を貼り、親しみやすい雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 居間にはダイニングテーブルとソファをゆったりと配置しており、利用者は思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。車いすの利用者が移動しやすいように広々とした空間が保たれている。環境整備が行き届き、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置き、仲の良い入居者さん同士がくつろいだり、お一人で過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、全個室になっており、写真や花、思い出の品々を自由に置き、居心地良く過ごせる様工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、タンス、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者の状態や希望により、畳を敷き居室を利用することができる。居室には利用者が使い慣れたものを持ち込むことができ、思い出の写真や花、観葉植物などを飾り、自由にレイアウトを楽しんでおり、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室やトイレに目印や表示をして、身体状況に応じて歩行器・車椅子・リクライニング等利用して頂いている。	